

Product Liability NEWS

2号

20.Nov.2013

jtdna

検索



JTDNA®

【発行所】

特定非営利活動法人 日本テクニカルデザイナーズ協会
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-22-5 パークスビル 2F
☎03-5875-6175 FAX: 03-5875-6176
✉c-japan@jtdna.or.jp

■ 製品安全対策表彰の発表 ■

去る11月22日経済産業省主催の第7回製品安全対策優良企業表彰が行われました。各受賞企業のプレゼン内容によれば、製品安全への取組みは組織全体としての対応と、取引先を含めた共同体制の推進が評価される要件のようです。また、経済産業省大臣官房審議官(商務流通担当) 佐々木 良氏および長岡技術科学大学安全安心社会研究センター長 三上 喜貴氏による基調講演では、「リコール対策」「経年劣化対策」「事故情報収集」の取組みが中心課題であり、今後企業運営において、このことは不可欠条件となります。

ISO や PSE などに準拠したものをのをつくるのは当たり前であり、特に評価することはありません。国のガイドでは、「より深く仕入れ先の安全品質管理に介入する」ということが重要で、さらに販売ルートとの深い連携をもって、リコールの際の早期解決を目指す取組みが

受賞企業の経営者の面々です。来年は皆様もここに立ちましょ。



PL 対策ワンポイントアドバイス

経済産業省の【製品安全に関する流通事業者向けガイド】では、その製品適用範囲は P.4 2項の通り「消費生活用製品の新規完成品」としてあります。いわゆる「工場で組み立て完成したもの」であり、市場に供給されたものはこの範囲にあるのか不明です。製造者の所有から離れたものは、やはり「PL 対策」での対応となります。正しい PL 対策実践こそが「良い会社」そのものです。

必要だとしています。最新のリコール対策については、当協会でも次ページに掲載した取り組みを開始しています。今日お店で売られたものは、10年間 PL リスクが生じ、時の経過とともに経年劣化などのリスクが高まり、それがリコール原因となります。早期の取り組みが自社の将来の負担を軽減します。(渡辺欣洋)

■ 事務局便り ■

■いつも当協会にご支援を賜りありがとうございます。今年も残すところわずかとなりました。年末年始休暇についてご連絡いたします。

平成 25 年 12 月 27 日(金) ~ 26 年 1 月 5 日(日)まで休暇とさせていただきます。

■PL 検定2級に合格し正会員になった証として会員証を発行します。以前のものとデザインも変更になっています。さらに、専門講習を所定の時間履修することで、PL アドバイザーやテクニカルデザイナーの資格証明書を別途発行します。両方を取得することもできます。(事務局長 秦 優子)



■ 認定委員会事務局より ■

昨今 JTDNA の事業が広範囲に認められ始めていることを受け、現在「認定委員会」では、「認定事業者」の認定要件の見直しを進めています。リコール対策の取組み強化などに伴い、「認定事業者」も、より多様な分野の方々の参入が求められます。改訂される認定事業要件などは、2014 年 4 月のシンポジウムにおいて公表予定です。

※「認定委員会」は、偶数月ごとに協会本部にて開催しています。(認定委員会事務局長 田辺俊一郎)

x

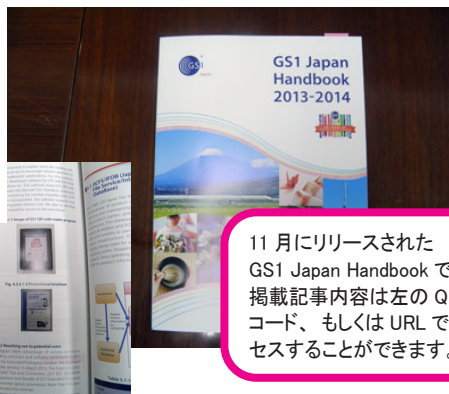
INDEX

- 1ページ・・・製品安全情報・事務局便り
- 2ページ・・・首都圏トピック
- 3ページ・・・各地から・行政情報・PL 検定事務局より
- 4ページ・・・検定受験者のコメント・Q&A・イベント

■ 最新のリコール対策研究部会開催 ■

既に皆様にも最新情報としてお知らせしている通り、本年1月より一般財団法人流通システム開発センター国際部の進めている次世代 QR コード (GS1QR コード) を利用した最新リコール対策について、各方面から識者12名が参加し、12月10日、当協会本部において第一回の研究部会が開催されました。当日は現在のリコール対策の実情、国の動向と今後のこの研究の方向性、さらに GS1 Japan の市原様から流通情報の世界的な動向、GS1QR コードのご説明をいただきました。来春の JTDNA シンポジウム 2014 にても、主たるテーマとして、「誤使用防止とリコール対策」を取り上げ、この部会の具体的な取り組みの公表を行います。この取り組みについては、平成26年4月から他の研究機関や事業団体、国などに提言を開始し、BtoC いわゆる消費者市場に関わるすべての関係団体などに普及させていく予定です。この取り組みの試験導入は既に当協会賛助会員事業者にて進められており、リコールの際の高額な社告費用などの負担もこの仕組みを利用することで大幅に軽減、同時に回収費用対効果の向上などが期待されます。

<http://goo.gl/UR00uL>



11月にリリースされた GS1 Japan Handbook です。掲載記事内容は左の QR コード、もしくは URL でアクセスすることができます。

■ 賛助会員の取り組み紹介 ■

当協会の賛助会員である株式会社川口技研では、「PL 対策マニュアル (案)」を 25 年度末完成として進めています。同社は、埼玉県川口市に本社を置き、ホスクリーンや網戸など家庭用建築金具を制作・販売しており、その製品の質は大変高い評価を得ています。2011 年経済産業省主催の 23 年製品安全対策優良企業表彰にて商務流通審議官賞を受賞し、不断の製品安全に対する取り組み姿勢を評価され、同業界に強いインパクトを与えました。納口成一郎社長は、取材に際し、「製品を使っていただく消費者は勿論、工事業者に対しても『安全・安心』を第一に考えて製品とサービスの提供に配慮しています」と語られています。

最近の PL 事故やリコール問題への対応策として全社的 PL 体制作りを目的として、納口社長から「PL 対策マニュアル」作成の指示を受けて、品質管理室長・山崎久志氏を中心に検討および作成が開始されました。PL 対策マニュアルは、事故予防対策 (PLP) と事故後対策 (PLD) の 2 部構成として作成される予定とのことで、協会としても賛同するところであり、関連情報提供等を始めとしたお手伝いをしています。PL 対策推進には、関連知識を修得した人材育成が欠かせません。JTDNA として製品安全を目指す川口技研様および社員の皆様の応援をさせていただきます。

株式会社川口技研本社ビル



平成23年度の経済産業省製品安全対策優良企業表彰受賞、キッズデザイン賞受賞、グッドデザイン賞など、数々の賞を受賞しています。品質管理室長 山崎 久志様



■ 新賛助会員さまご紹介 ■

12 月1日より賛助会員となった「(有限会社) マニュアルハウス」の皆さんです。同社は取扱説明書作成を専門としている会社です。

写真左側が代表の山田清美さんです。総勢5名の取説専門のプロチームで、ソニーを始め大手家電メーカーや多くの経験を積まれた取扱説明書制作のプロ集団です。他言語対応など、GS1 関連など、グローバル社会における取り組みについてもご理解いただき、今後は当協会のガイドライン基準に則って、協会の認定事業者になるための取り組みを進めていただきます。

来年2月を目途に、協会本部に常勤され、皆様のご相談対応を行います。複雑な家電製品、機械器具、またイラストや翻訳の専門家もいますので、様々な内容のアドバイスなど、協会本部スタッフと連携してお手伝いさせていただきます。



各地からの報告

■ JTDNA 情報交換会（大阪）の報告 ■

西日本（会場：大阪）では、去る10月17日にPL対策に関する有識者にご登壇いただき、情報交換を開催しました。参加者に消費者庁事故調査委員会の取り組みや独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）の取り組みを理解いただきました。また、誤使用事故と取扱説明書の関係に着目したリコール対策の取組事例も紹介しました。協会ではリスクコミュニケーションの一環として、「製品事故から身を守るために 身・守りハンドブック（HB）」を活用したアンケート調査を行っています。今回のイベントでも調査を行い、ハンドブックの中から、製品事故事例を選び質問いたしました。

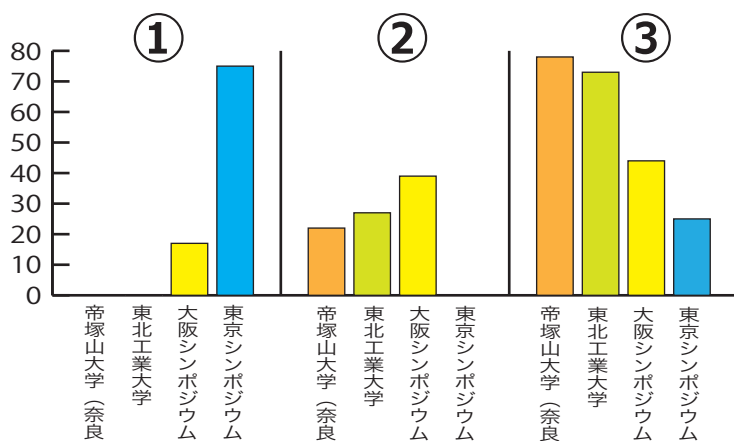
【事例】脚立から転落して打撲（HB 27 ページ参照）

設問：表示した事故事例を区別すると、以下のいずれに該当すると思いますか？

- ①製品欠陥事故で100%事業者責任のもの
- ②誤使用だが、トリセツなどの資質で過失割合の間われるもの
- ③明らかに消費者の問題で、消費者教育により解決するもの

簡単な調査ですが、学生と社会人や東西間での意識の違いができました。（下グラフ参照）

引き続き調査を継続し、結果を公表していく予定です。
（担当理事 田上哲也）



大手製造業（化学製品、製薬会社、家電、雑貨）、輸入事業者、大手小売事業者、業界団体、行政などが多数参加しました。意見交換会では、家電量販店エディオン商品本部マネージャー田治様、帝塚山大学タン・ミッシェル教授、JTDNA 渡辺理事長により、濃い内容の意見交換が行われました。

PL 検定 事務局より

JTDNA®
PLnews

2013 年 12 月号

いよいよ本格的に冬が到来、暖房器具が大活躍する季節となりました。ガス・石油・電気等、熱源はさまざまですが、必然的に、一酸化炭素中毒・低温ヤケド・火災等のリスクを伴います。製品の正しく安全に使用されるためには、「正しい製品情報」が事前にきちんと使用者に届いていることが不可欠です。

本体表示も見やすい場所に大きな文字でシンプルに表示できていることが基本です。使用者はそれをよく読み、さらに取扱説明書に従って正しく使うことで事故を防ぐことができます。（PL 検定事務局長 田邊俊一郎）

【例題】

設計上、現在の技術力では回避できないリスクが存在する場合、そのリスクを回避するための注意を記述することは、取扱説明書の重要な役割のひとつである。

【解答：○】

【解説】

例えば電気製品には、設計等では回避できない「電気リスク」があります。これを取扱説明書に明記し然るべき注意喚起を行ったかどうか—そこに取扱説明書の《質》が表れます。そして何よりも、PL 対策への取組みの《本質》が問われるのです。PL 検定の受験を通して、「正しい製品情報」を的確に伝えるツールを身につけてください。

行政・業界情報

■ 昨年に引き続き、今年も印刷業界紙の日本印刷新聞にて連載コラムがスタートしました。前回は、協会の活動を通し、印刷業会と PL 対策の関係を12回でお伝えしました。特に正月号は特別企画で nite の長田参事官、知的財産の権威、梁瀬先生と当協会理事長の正月対談を見開き2面で掲載いただきました。今年は GS1 との取り組みなど、直接印刷業界にも関わる具体的な内容で構成していきます。掲載新聞は協会本部に多数いただいていますので、ご入用の方は事務局までぜひご連絡ください。

■ 来春のシンポジウム開催や最新のリコール対策について、消費者庁消費者安全課事故調査室新任の課長補佐（総括担当）と、事故調査の進捗、当協会にてご協力できることなどの情報交換をしました。

■ PL 検定受験者の声 ■

当協会賛助会員で新潟県燕市の商社、(株)カクセーの社員様の取り組みをご紹介します。「業務に取扱説明書の作成がありますが、自分でも満足に足るものではないのに具体的な改善点はわからない状態でした。そんな時に JTDNA という団体をご紹介頂きました。検定受験を決め、学んでいくうちに取扱説明書を分かりやすく作るということはその製品を深く理解することだと知り、きちんと利点や欠点を理解した製品づくりをし、取扱説明書だけでなく製品・パッケージ・POP などの広告物等にも学んだ知識を生かしていきたいです」(高井様)



株式会社カクセー
高井由美子様

2級
合格

「PL対策を進める前に、PL対策とは何か、また、会社を取り巻く環境についてセミナー等を通じて学びました。それを聞き流すことなく身に付けるためにも検定を受け、無事合格しました。会社として、というよりはまず自分自身の中でより深めていけるように勉強や情報収集を続けていきたい。具体的な対策としては、取扱説明書を改善することでユーザーから安心して使用していただき、クレームや問い合わせの件数を減らしていきたい。」

(佐藤様)

JTDNA®
PLnews

2013 年 12 月号



株式会社カクセー
企画部 佐藤 稔様

3級
合格

Q&A PL 対策についてのご質問

Q : PL 対策を取り組みたいが何をすれば良いのか？

A : PL 対策とは、ガイドラインや解説書にも記載されているように、「販売後の消費者に対する事業者の責任」です。正しく使ってもらうための説明責任、その説明方法・内容などが、企業の都合ではなく、消費者視点でわかりやすくされているか、言い換えると取扱説明書などの資質を問われています。まずは消費者から見えるもの、本体表示、取扱説明書、広告、web サイトなどの見直しからです。

Q : 製品事故が起きたときの相談にのってもらえるか？

A : PL 検定を受けた会員、企業として賛助会員登録されている場合は、具体的な相談対応をいたします。一方、協会との関係が特にない場合は、協会本部（池袋）にて、ご相談対応をいたします。

Q : 専門的な勉強はどのように誰が受けられるのか？

A : PL 検定2級合格者については、年2回、専門講習を行います。全研修履修後は PL アドバイザーやテクニカルデザイナーとして、検証プログラムを用い正しい評価方法などを習得いただきます。

Q : 国の示しているガイドと何が違うのか？

A : まず、国は「民事不介入の原則」があります。よって、皆様の事業上生じたトラブルはすべて民事になります。PL 事故の被害者からは民事賠償責任を問われるということです。国はあくまでも指針を示している訳であり、具体的には各事業者がそれぞれの責任で対策を講じることになります。とはいえ、多くの経験や継続した情報などをもとに、社内体制、品質管理規定、設計基準などを見直すには大変な労力と時間を要します。その軽減のためにこの協会が設立されています。

Q : 本体表示などと取説の関連を教えてください

A : 本体表示についてはまず、業界団体の規制、国の規制を調べてください。協会本部にも最新のものを用意していますので、それらを参考に、消費者保護政策下の正しい表示方法と取扱説明書の関係をご指導しています。

●次回(平成26年2月号はリコール対策についてのQ&Aです。)

イベント情報

JTDNA 製品安全シンポジウム 2014 のお知らせです。

- 開催日 2014年4月11日(金)
- 時間 開始13時15分終了予定16時30分
- 場所 サンシャインシティ文化会館5階
- 定員 150名(無料)

正会員専門講習のお知らせです。

- 開催日 2014年2月開催予定
- 時間 3時間を予定
- 場所 当協会本部(池袋)
- 定員 12名(有料)

PL 対策の基本から専門家の入口

24h
受付

PL 検定®のご案内

webで受験



3級
8,400 円

jtdna 検索